

【取組内容④】 地区小・中学校の情報共有と研修機能を兼ねた同一チーム作成とその運用

中仙地域LDXに向けて

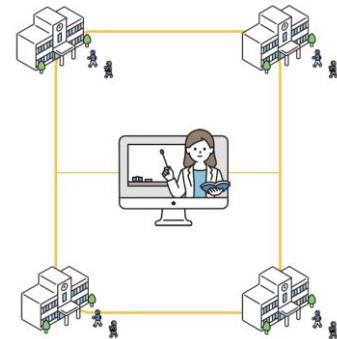
本地域は、これまで中仙地区教育研究会（以下中仙教）という組織の中で、3つの小学校と1つの中学校が共通実践を設けたり、授業を見合う会を随時開催したりして、授業力向上に取り組んできた。この重要な教育リソースをDX化することで、より密度の濃い、スピード感のあるシームレスな研究ができるのではないかと考えた。さらには、生徒・児童の交流もDX化することで、中1ギャップの軽減を図ることも考えた。

まず初めに、3つの小学校と1つの中学校を一つのチームにまとめることに取り組んだ。意識レベルでのつながりであった「中仙教」という組織を一つのチームに取り込むことができた。そこでは以下の3つを合い言葉とした。

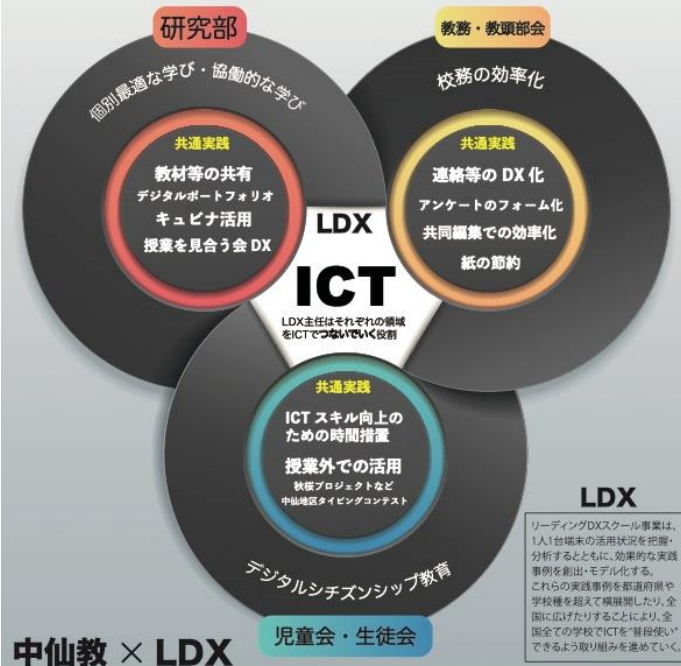
- ①まずは、できることから
- ②できたことを共有
- ③みんなでやってみる

ICT活用の取組を、以下のように3つに整理し、さらにそれらをICT活用により繋いでいくというイメージで進めることにした。関連する項目をそれぞれの部署に分けて取り組むことにした。

- 個別最適な学び・協働的な学びに関することは「研究部」
- 校務の効率化に関することは「教頭・教務部」
- デジタルシチズンシップ教育に関することは「児童会・生徒会担当」



中仙地域の学び方・働き方をDX化し、効率よく、楽しく繋がり、教育効果を倍増させよう！



LDX
リーディングDXスクール事業は、人1台端末の活用状況を把握・分析するとともに、効果的な実践事例を創出・モデル化する。これらの実践事例を都道府県や学校種を超えて横断したり、全国に広げたりすることにより、全国全ての学校でICTを「習得使い」できるよう取り組みを進めていく。